

「ピンチ」の後に「チャンス」あり

生徒の皆さん、おはようございます。校長の博田です。猛暑の上、ゲリラ豪雨など天候も不安定な夏季休業期間でしたが、皆さんは有意義に過ごしましたか。今日から第2学期です。1年の中で一番長い第2学期において充実した学校生活を送る上でのヒントについて、皆さんにお話ししたいと思います。キーワードは、「ピンチ」の後に「チャンス」あります。

今年の夏、スポーツの大きなイベントが幾つかありました。まずは、パリ・オリンピック。日本代表選手の活躍やその活躍の裏に隠されたエピソードなどに感動した人も多かったのではないのでしょうか。また先日まで行われていた甲子園球場での夏の高校野球選手権大会の熱戦に目が釘付けになった人もいたことでしょう。高校野球の試合では近年、皆さんご存じの通り「タイブレーク」という制度が取り入れられました。これは延長戦において点が入りやすい状況から攻撃を始める制度で、目的は延長戦を早く終わらせることです。延長戦が長引くと、選手の疲労やケガのリスクが高まると考えられているためです。

高校野球でのタイブレークは2023年度から規則が改正され、攻撃側のチームは10回表ノーアウト1・2塁の状態から行うなどのルールとなりました。これまで甲子園大会での延長戦は、感動的な結末で人々の心に深く刻み込まれる試合も多かったのですが、私は熱中症の予防やピッチャーの投球数を抑えるという観点からも優れた制度だと思います。今年の甲子園大会でも何度かタイブレークによる延長試合があり、私も決勝戦の東東京代表の関東第一高校と京都代表の京都国際高校の一戦をテレビで見ていると感動しました。

このタイブレークは、言わば「人工的に」ピンチとチャンスを作る制度ですが、ピンチのあとにチャンスが巡ってくる目まぐるしい試合展開を見ていて私が思い出した言葉があります。それは、「人間万事塞翁が馬」ということわざです。「人間」というのは、「世の中」、「万事」は、「すべて」という意味です。「塞翁が馬」とは、「お城の近くに住んでいたおじいさんの馬」という意味ですので、つなげると、「世の中のことはすべてお城のそばに住んでいたおじいさんの馬の出来事と同じだ」という意味になります。中国の古い書物「淮南子」に書かれている話です。城塞つまりお城の近くに住む老人の良馬が逃げてしまってもみんな残念がったのですが、その馬は沢山の良馬を連れて帰ってきました。みんながお祝いをすると、今度は老人の息子が馬から落ちて骨を折る大けがをしました。そのあと戦争が起き、村中の若者は戦争に連れて行かれてしまいましたが、老人の息子は大きなけがをしていたので戦争には行かなくて済んだという話です。老人は常に冷静でした。

転じて、この常に冷静な老人の姿勢から「幸せや不幸は予測の付かないもの」「今を精一杯生きることが大事だ」という教訓を表すことわざとなっています。良いことがあっても浮かれず、また大変なことがあってもがっかりしないという老人の態度は、高校野球のタイブレークの試合と通じるものがあると思いました。どんなピンチを迎えても、

たとえ点を取られた後も精一杯のプレーをすることで試合の流れを呼び込む高校球児たちから私は多くのことを学んだ気がします。

さて皆さんの学校生活は、この老人のように一喜一憂せず、毎日を過ごしているでしょうか。例えばテストで思うように点を取ることができずがっかりすることがありますが、決してがっかりする必要はないことになります。テストの点数が思うように取れなかった人は、同じように悩んでいる人の気持ちがよく分かるのではないのでしょうか。困っている人の気持ちが分かる人は優しい人です。みんなから慕われるようになるかもしれません。逆にテストで良い点を取った人は自信满满、得意満面になるかもしれませんが、あまりに自信過剰になると友達は離れていくものです。友達が離れていくと寂しい思いをすることになります。良い点数でもそうでなくても、浮かれたり、がっかりするのではなく、次に向かって小さな一歩を踏み出すことが大事なのではないのでしょうか。「人間万事塞翁が馬」、いい言葉ですね。どんなに悪いことがあってもくよくよししない。そして良いことがあっても油断しない。ピンチの後にはチャンスがあると信じて、今この瞬間、すべきことをきちんと行う。そんな逞しい人になりたいですね。

さて文化祭まであと10日ほどです。準備をしていて上手くいかない場面もいろいろと出て来るでしょう。しかし、それをマイナスと考えずプラスに捉えて、次の行動に活かしてみてはいかがでしょうか。こういう気持ちを共有して周囲の人たちと力を合わせて文化祭を成功に導いてほしいと願っています。また文化祭が終わった後も学習面、探究活動、部活動など様々な場面で、例え失敗したとしてもあきらめず、また成功したとしてもおごらず、学校生活を送ってほしいと思います。皆さんは今、「青春真っ只中」です。失敗も成功のもとと考えて何事にもポジティブに取り組んでほしいと願っています。

以上で第2学期始業式での私の話を終わります。

令和6年8月29日
都立翔陽高等学校長 博田 英明